

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成19年12月 6日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 優海 (熊本県)
評価調査員の氏名	氏名 淵上 一光 氏名 森脇 伸一
事業所側対応者	職名 介護支援専門員 氏名 石田芳子、濱本 郁美 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4391500016
法人名	有限会社 さかがわ
事業所名	グループホーム 優海
所在地	熊本県天草市御所浦町古屋敷3916 - 6 (電話) 0969-67-2550
評価機関名	特定非営利活動法人 PRENET21
所在地	熊本市八幡9 - 6 - 51
訪問調査日	平成19年12月 6日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 12月 4日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	0 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 78 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	天草市立御所浦診療所、上天草総合病院、天草市立御所浦歯科診療所
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

御所浦の港から山道を数分登ったところにある事業所は、海や山に囲まれた閑静な場所であり、ゆっくり時間が過ぎていく感じを受けました。利用者の方達も職員の皆さんと親しげに会話をされており、落ち着いて生活が出来ていると感じました。事業所内も清潔で明るく、食堂や居室も他事業所に較べ、広々と設計しており、ゆったりした空間の中で、個々人それぞれにあったライフスタイルを過ごされています。特にトイレに温かいタオルを常備し、利用者の方のお尻を拭いてあげるなど、細やかな心配りが素晴らしいと思いました。

##

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	記録の管理は適切、厳重に行われています。スタッフの研修会は、定期的には実施できていないものの無理なく有意義に、また確実に進められています。これにより、スタッフ同志の認識も向上しているように思われます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	不定期の全職員による勉強会において、自己評価の意義を考え、具体化しながら改善に取り組んでおられます。今後は、勉強会の開催頻度を増やし、自己及び外部評価における改善点を見直していく努力をしてもらいたいと思います。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は委員の選任、毎回の議題とも申し分ないと思います。また、地域包括支援センターの方とは推進会議以外でも交流をされているなど、努力のあとが伺えます。今後は、地域住民の方達との更なる交流ができるような工夫・努力が必要ではないでしょうか。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の状況はきめ細かく把握されており、家族への報告も定期的になされているようです。意見箱への投函より直接職員の方への要望、意見が多いようですが、その日のうちに申し送りをするなど、迅速な手を打たれています。今後は、意見箱の活用を図るための工夫をお願いします。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園のお遊戯会を事業所で開催するなど、地域住民の方達との交流は深まっていると思われます。今後も自治会、老人会等の行事へ積極的に参加し、地域の一員としての立場を確立して下さい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である「Smil, Slow, Safety... ゆとりある愉快的な生活の為にゆっくと安全に」を、実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目に付くところに掲示し、常に確認できるようにしてある。		毎朝の申し送り時等に、1日1回は理念を唱和するようにして欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校の運動会や町民体育祭の見学等を通して、地元の人々との交流は頻繁に行われている。特に事業所での保育園児によるお遊戯会は、利用者の皆さんが最も喜ばれる行事だと思ふ。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1人ひとりが自己評価を通し、具体的な改善を行っている。		勉強会の開催頻度を増やして、職員相互の意見を出し合い、更なる向上を目指してもらいたい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、開催頻度は充分である。内容的にもサービス向上につながる具体的な意見が出るなど努力が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの良好な関係が維持運営されており、申し分ないと思う。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	きめ細かく利用者の状況を把握しており、家族に対しても定期的及び個々に合わせた報告がなされている。また、金銭管理の面では、出納帳の写しを月に一度は家族のもとへ送付するなどの配慮が行き届いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を玄関に設置し、苦情等の受け付けを行っている。しかし、この「意見箱」に投書するよりも直接職員へ意見を言われる方が多い。そのような意見、苦情はその日のうちに申し送りをして、職員共通の認識を持つように心がけるとともに、寄せられた苦情等は速やかに運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1ヶ月目に管理者の交代があったが、全職員によるフォローにより、利用者の動揺等も最小限に抑えられた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も数多く参加しており、事業所内研修も実務に即した研修が行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会への参加により、他社との交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームの見学や1日体験を通し、利用者がホームに馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、利用者からあらゆる機会に知恵を授かったりしながら、生活を共にしているとの認識で利用者と接している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居時や面会時に話し合いを行い、利用者の情報収集を行っている。基本的には利用者本人の希望を優先している。気分がよく変わる人の場合は、24時間のチェック体制を敷いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	当初のアセスメントをその後の情報収集により、より密度の濃いものへと発展させており、個々に合ったケアプランが作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月毎の評価・再アセスメントが行われ、ケアプラン作成に生かされている。利用者の急激な状態変化にも即応できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急連絡網の完備、職員の研修等は出来ている。また医療機関との連携は、良くとれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、本人希望の医療機関を優先した上で、離島の問題点を家族及びかかりつけ医に相談し、ホームとの提携医療機関への変更をお願いしている。かかりつけ医からは、定期的な往診等も行ってもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時及び重くなった都度、説明は行われている。記録は本人ファイルにしてある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けや対応についてはあらゆる会議・研修等で実施し、実務に生かされている。記録に記入する氏名はイニシャル表記にしている。個人情報の取り扱いでは、使用同意書を本人及び家族からもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや希望を優先し、タバコ嗜好者への対応等、個々人の希望に合った生活を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ、調理準備や配膳、片付けが行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように準備をした上で、利用者の健康状態や希望に合わせて、入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、料理、食器洗い等、利用者それぞれの趣味や特技などを生かし、日常生活の中で生き甲斐、役割をもてるような充実した日々を過ごせるように工夫している。また、何かされているときの声かけは必ず行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、散歩や畑仕事、草むしり等を行っている。		全員での外出等、工夫があれば尚良いと思う。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者のプライバシーに気をつけつつ職員が付き添い、見守りなどにより利用者の行動をケアしている。ベッドから利用者が降りられたときは、事務室のチャイムが鳴るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地元の消防団にも依頼し、災害訓練の実施に協力してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事指導が必要な利用者は現在いないが、主治医との連携により、利用者個々人に合った食事形態、食事内容を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のゆったりした間取りであり、採光も素晴らしい。リビングには季節感を取り入れるため、花や装飾品に気を使っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物類などは使い慣れた物を持ってきている。その他の物も本人の希望を優先し、利用者にとって居心地のよい居室となるよう配慮している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム優海
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市御所浦町古屋敷3916-6
記入者名 (管理者)	濱本郁美(介護支援専門員)
記入日	平成 19年 11月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		基本理念に基づいたサービスを提供でき、地域に根づく事業所となるように日々努力していきたくと思っています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後は1日1回は職員同士で唱和できるようにしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営推進会議のメンバーはもちろんご家族の方を介して地域の方々に啓発していこうと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩や買物等でもっと、職員や利用者が関わっていききたい。こちらから必ず挨拶を心がけることを続けていき、いつでも遊びに来てくださるよう声掛けをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		近所の方は利用者の顔を覚えて頂いていると思っています。が、まだまだ、私たちのホームの名前を覚えていただくことに努力している状況です。今後も保育園・小学生のお遊戯会や音楽会と色々な行事に参加していきたいと思っています。建物がわかりにくいのではないかと職員間ででているので看板の設置を考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市社協の事業の一つにあります、家庭介護教室の中で認知症についてを講演させて頂きました。少しでも地域の方に認知症について、また、グループホームについて、理解して頂ければと思って協力しています。でも、実際、地域の方の認知症についてのご理解はまだただと痛感しました。でも、今後も何かの役に立てればと思っています。		今後は地域包括支援センターの保健師と協力して認知症の早期発見に努められるように協力していきたい。また、地域の方々役に立ち助言できるように職員一同努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的には勉強会の形は取っていなかったが、開設当時から外部評価については触れていた。職員一人ひとりが自己評価を行い内容等の理解を得ています。また、足りない点や再確認できた点など事業所や自己の振り返りが出来る機会と思っています。初めての外部評価ですが、改善点は必ず有意義に活かせると思っています。		勉強会が継続でき、自己研鑽や事業所の向上に努められるように取り組みたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月から2ヶ月に1回、開催しております。内容的には入所者の状況や行事等の報告を行いながら、メンバーから貴重なご意見・要望を頂きサービス向上に活かしております。つい最近の会議では、地元消防団の視察を実施していただき、万が一の災害等のご協力をお願いしました。		忙しい合間に参加していただいているので、有意義のある会議にできるよう努力していきたい。また、今後は警察や老人会、区長、地域住民の方々に参加していただけるように働きかけたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	天草東地域包括支援センターの人とは入所者のかたの情報交換を行い、アドバイスを頂いたりして推進会議以外でも交流は出来ていると思いますが、行政(福祉)担当の方とはあまり接する機会がありません。(認定更新申請書を提出するときに話をしています)		ホーム側から積極的に働きかけ介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出来るようにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の家族や親戚の方から権利擁護の申請があり、手続きを済ませた方もいました。後見制度についてはお勤めした家族もいましたが、未だ手続きはされていないようです。管理者共に学習の機会がないので理解できていない現状だと思っています。		家族からいつ問い合わせがあっても答えられるように、また、利用者がいつでもこの制度が活用できるように学習の機会を作っていきたいと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についてはマスコミでも取り上げられるので、職員間では注意しております(言葉による虐待も含め)。ただ、制度についての勉強会はまだ実施できていないので、早急に取り組みたいです。		ホーム内ではもちろん、地域でも虐待があってはならないことです。介護職員の倫理、職務について見直しながら取り組みたいと思っています。また、地域で頑張っておられる介護者のストレスや苦悩が少しでも解決できるような手助けが出来るように職員一同で勉強したいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にて十分な説明をしています。また、契約書の内容も確認していただき、疑問点や不安を伝えていただき納得した上で契約をしています。ある利用者の家族より要望された「看取り介護について」は運営者と検討して追加することになりました。家族が納得できるように配慮していると思います。</p>	<p>必要により改善することでトラブルの防止が出来ると思っていますので、現状を維持していきたいと思います。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ある利用者から職員のミーティングの時に意見を頂き貴重に感じたことがありました。全職員がその言葉を重く受け止めています。今でも利用者の日常の会話やケアの中で意見を聞く機会を得て改善していくようにしています。</p>	<p>利用者が意見や不満、苦情を気軽に言える雰囲気になりたいと思っています。言葉がはっきり言えなくなった利用者でも意見を聞けるような取り組みをしたいと思っています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の都度、状態や近況を報告しています。遠方にて面会に来られない時は電話やお手紙、写真を送って近況を知らせしています。また、健康状態やお薬が変わった場合、必ず家族に連絡して再度、主治医に説明を受けてもらいます。金銭面は出納帳のコピーを月に1度は送付して確認していただいたり面会時にも確認してもらいサインを頂いています。まだ1回目ですが広報誌を作っています。</p>	<p>家族との連携は重要なので今後も担当者を中心にこまめに連絡していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置しており意見や苦情を受け付けている。家族が面会に来られたときに気づいた点を教えて下さることがあるので、それをその日の内に申し送りに記載し伝達したり、職員会議や行事等の反省会で伝え改善するようにしています。</p>	<p>ちょっとした事でも家族が伝える雰囲気を作り迅速な対応をこころがけていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、ミーティングや勉強会で職員の意見や提案を聞く機会をつくってあります。また、その場で対応策を検討し運営に反映できるようにしてあります。</p>	<p>いろいろな考えを持っているが、それを伝える機会が少ないと感じている職員もいるので検討会やミーティングを定期的に設けていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在利用者の状況に合わせた勤務調整を行っている。病院受診等事前にはわかっている事に対しては勤務の人数を増やし調整している。また、癌の終末期の利用者の状態が悪くなったときも、看護師がフリーとなり夜間でも対応できる勤務体制にしていた。</p>	<p>職員の人数は確保されているので行事等で必要なときは時間出勤等の検討もしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設1ヶ月目で管理職の退職があり、利用者に不安をかけたが、全職員でフォローしたため利用者のダメージは少なかった。(当時入所者が3名だったので不穏も招くことなく過ごされた)職員の動揺は見られていたので、新しい管理者と談話する機会をつくり取り組んできている。</p>	<p>今後も離職者の問題は生じるのでその都度検討していく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、県の認知症介護研修に申し込みをしたり、ケアマネの更新研修に参加している。ホーム内でも利用者に関連した病名や処置について勉強会を開いています。	外部研修が少なく職員のレベルアップが気になっている。今後は計画的な研修参加を考慮していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会のメンバーとして、管理者が研修会に参加している。その内容が明確に職員に伝わりサービス向上に繋がっているのか疑問ではある。	管理者会議が主なようで他の職員が他の施設と交流する機会が少ないので、全員が活動に参加できるように計画したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員との会話に努めているが十分な時間をつくることは出来ない。ただ、勤務については管理者や職員にある程度任せてもらっているので、仕事がやりやすい環境を作っていると思っている。	もう少し事業所に多く行き職員との交流を持ち気軽に意見が言える人間関係を保てるよう努力したい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は個々の能力や実績を活かした役割を実施している。また、毎月個人の目標を掲げて意欲を持って働けるように支援しています。	資格保持者が少ないので今後は介護福祉士の資格取得に向けて援助できるよう考慮していきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居するまでは1度自宅訪問して住環境や生活状況を把握します。不安で家族から取り残された気持ちをもたれないよう、人間関係に努力しています。病院から直接の場合はサマリー等の情報を頂き情報収集に努めます。家族が了解していただければ一旦入所された後に外泊の形をとり、落ち着いて頂き職員が自宅に迎えにいったこともありました。	入所に対しては本人と家族の意向が違う場合がありますので、長くホームに住んで頂く為にも、家族が許していただける限り、利用者の事を考えた行動を取っていきたくと思っています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居するまでの間、ご本人と家族がホームに直接来ていただき、一緒に食事をしたりして過ごしていただき不安の解消に努めています。	家族の不安や苦悩を把握でき、安心していただけるように努力していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の相談内容をその時に復唱しながら確認します。その時に出来ることは家族や本人にお約束しますが、時間が必要な場合は後日報告するようにしています。必要とされるサービスは可能な限り提供するように努めています。		可能な限り細やかな情報を集め早くホームに慣れていただくように努力し続けていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に直接ホームに来ていただき見学してもらいます。そのとき少しばかりの情報を把握します。後日、本人・家族共に1日体験入所をしていただいた事もあります。		本人の気持ちは後になっていますので、出来れば本人の納得の上でサービス利用開始を行っていききたいと思います。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護しているのではなく、一緒に生活している事を念頭に置いて毎日過ごしていますので家族的な関係になっていると思います。学ぶことも多く、特に炊事や畑仕事はアドバイスを頂いています。時には職員の家族のことも心配するような言葉も聞かれるのでありがたく感じています。		家族的雰囲気や大事にしていますので共に支えあう関係づくりを行っていききたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事はもちろん、本人の誕生会には必ず家族を招待して一緒にお祝いして、交流を深め、スタッフとのコミュニケーションを図っています。遠方にいらっしゃる家族にも手紙や写真を送って近況を連絡するように心がけています。		家族からの意見をもっと取り入れ一緒になって支えていくようにしたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との関係が途絶えないように手紙や電話で近況をお伝えするようにしていますが、ご面会が少ない家族もいらっしゃいます。(それでもお盆とお正月の帰省時には毎日ご面会に来られています)入居されて、縁遠かった兄弟と利用者が良い関係になられた人もいます。		家族は入居されたということで安心され、預けっぱなしにならないように、職員が間に入り関係を途絶えないようにしていきたい。より良い関係を保ち続けて行けるように支援したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られるケースが多く、馴染みの場所に出かける事は少ないようです。出来るだけ出身の地域に連れて行くようにしていますが、離島という地域性もあり限られてくることもあります。		馴染みの場所は本人との会話の中で見つけ出す必要があり、ご家族の確認も必要になります。もっと沢山の情報を取得して信頼関係ができるよう働きかけたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所者の状況に応じテーブルの座席やリビングで一緒に過ごす時の状況を考慮しています。なかなか個性のある方が多く、本人は良かれと思って楽しんでいることも他の利用者には苦痛で嫌がられる事があり、職員が間に入り双方に会話対応して納得いただいています。リビング【ホール】で過ごしている時間が多いと思っています。		リビングで過ごす時間は多いのですが、関わりあい支えあう事が少ないので職員が関係づくりを支援していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ契約終了の方はおられません。今後サービスが終了されたとしてもご家族や本人さんとの関係を続けていこうにしたいと思います。		サービスが終了しても今まで関わってこられた利用者さまなのでどんな形でも支援できるような考えをもって取り組んでいきたいです。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族より聞き取りを行ったり、面会時に情報があれば収集したりしている。家族の意見も重要にしているが、最終的にはご本人の思いや希望を優先しています。		利用者の思いは把握してサービスに繋げてはいるが、その日その時で異なるときもあるので一つでも多く支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族より生活歴を把握して個人のファイルに記載しています。また、その後利用者との会話の中で取得した情報も個人記録に記載し情報の共有に努めています。		センター方式を使用しているが、上手く活用できていないので更に活用できるようにしたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活状況を毎日記録して状況変化に努めています。		一人ひとりの過ごし方を総合的に把握できるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所と同時に担当者がセンター方式を記入し、利用者の出来ること・出来ないことを把握し検討会を介して介護計画作成に繋げています。家族に確認していただき同意のサインをもらっています。		家族との話し合いの時間が少ないのでホーム側から自宅に出かけていくようにして家族に参加していただきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の見直しを行い、状態変化時には見直しを行っています。		状態変化の時には見直しが遅くなりがちなので早急な対応を心がけていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録【気づきノート】とケアプランシートを使用して状態変化を把握しています。申し送りノートも活用して、実践やケア計画に活用しています。		気づきノートに書く内容が職員の個別差があり、職員のレベルアップを図る必要があります。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の協力は多い方だと思いますが、時間と人数に余裕が見られないのか、高熱が出たときも往診を受けられず、外来受診をすることを余儀なくされてしまいます。また、週末には医師不在になってしまうので、少しのことでも早めに医師に相談して早期の処置を対応していただいています。それでも、いつも気にかけてくださり心強く思っています。		常に細かいことでも医療機関に相談してすぐに対応できる体制をつくっていきたい。
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に参加して下さる民生委員の方にはGHのあり方や利用者の状況を理解していただき、地域の行事等へも声かけていただいています。また、ゲートボールを楽しんでいらっしゃる近所の老人会の方からは、いつでも参加してくださいと声掛けは頂いてますが、事業所から各種団体への啓発・呼びかけは足りない状況です。		関係機関との協働体制をとり地域資源をもっと活用できるようにしたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	常日頃から各居宅支援事業所のケアマネと情報を取り合っていますが、ほかのサービスに繋がる相談はありません。		現状を維持し必要に応じ改善していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今まで地域包括支援センターが関わってきていた利用者が入所されていますので、入所当時から適切なアドバイスをいただいています。		これからも地域包括支援センターとは権利擁護等の総合的マネジメント等について話し合いを持ち相談や助言を受けていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前のかかりつけ医を継続して受診できるようにしていますが、離島の問題点があり、本人の負担を確認すれば家族とかかりつけ医に相談し、協力医療機関への変更を申し出ています。今でも家族の協力を得ながら今までのかかりつけ医への受診が出来ている方もおられます。		これからもかかりつけ医との協力関係は続けていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の紹介で入居当時に利用者2名が認知症専門医に受診しておられます。今後もいつでも受診できる体制づくりができています。		協力関係を維持していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地元の協力医院と歯科との契約が交わされており、看護師が1名配置され、日常の健康管理や医療管理を行っています。常に医療機関の看護職の方に24時間相談でき、特に重度化している人や癌の末期の方もおられるので心強い連携です。		現状の協力関係を維持できるようにしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携で入院時の対応や早期退院に向けた情報交換ができています。入院時は看護師や管理者が面会に行き家族の不安や相談を把握しています。		入院の必要性から医療機関と家族との連携を図り信頼関係を築きあげ、入院期間を短縮して可能な限り終末ケアまで継続できるようにしたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時に説明して理解していただいています。入居時から終末期で入居される方も居られかかりつけ医や家族と何度も話し合いをしてきました。利用者が一時期状態が悪くなったときには家族に付き添ってケアしてもらったこともあります。かかりつけ医は家族の意向をその都度確認するようにとのアドバイスももらっています		本人・家族の要望に対して不安なく対応できるように職員の理解と意識付けを行っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の方が一時期状態が悪くなり、職員が動揺したこともありましたが、まだその時には、職員間での話し合いができていなかったため、終末へのケアについてを統一できていませんでしたが、何度も話し合い、家族の意思を確認したら、現在は不安なくケアしています。		家族の意思は確認していても職員の不安は経験を通さないと消えないと思っています。その不安を解消できるようにいつでも話し合い職員間に認識の差がないようにしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方には環境の変化は最もダメージの影響が大きいという認識を持って説明しています。現在、住み替えの申し出はありませんが、今後相談があった場合は十分な話し合いを行い情報交換できるようにしたい。		環境の変化が与えるダメージの理解を関係者間で十分話し合い、ダメージ防止を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の名前を呼ぶときには、人生の先輩だということを念頭において名字、名前に～さんというように気をつけています。記録にはイニシャルを使うようにしています。個人情報の保護は使用同意書をご本人と家族から頂いています。</p>	<p>ご本人の尊厳を損なうことなく配慮した言葉かけや対応、個人情報の保護は介護の基本だと思っておりますが、業務に流されてしまう時には忘れがちになります。職員の指導と振り返りが重要ですので常に気をつけていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>毎日の業務の中でご本人の自己決定は重要視しています。一度の説明で納得して頂けない時はスタッフが変わり説明したりと気持ちを表せるように働きかけています。</p>	<p>職員の言葉かけはできていますが利用者は意思疎通や表現力も違うので個人に合わせた意思の疎通が出来るように努力していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の思いや希望を最優先にして個別援助をしています。思うように本人の気持ちが出にくい方に対しては、色々な言葉掛けをして表出できるようにしています。</p>	<p>本人のペースを守りながら希望にそった援助をしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の希望に添ったおしゃれをできるように季節感のある身だしなみを心がけています。また、理容は家族の希望もあり毎月1回連れて行く支援をしています。美容の方は家族の面会時に散髪したり、本人の希望で職員が散髪したりしています。</p>	<p>季節に応じた衣替えを協力してもらいながら、着慣れた衣類を提供していただくようにこえかけていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>朝食はスタッフが作っています。昼食や夕食の食材は利用者の方をお願いして野菜切を手伝ってもらっています。後片付けは出来る方は台所まで持って行ってもらいます。</p>	<p>利用者の得意料理を更に指導していただけるような雰囲気を作って生きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居の際に聞き取りにて情報を得たり、嗜好の確認しながら支援をしています。入居前から習慣にされている焼酎やタバコは入居時に家族と話し合い提供できるようにしています。最近は利用者の希望から飲み物も希望に添って提供しています。</p>	<p>利用者からの要望が叶えられるように職員が勉強していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立に向けて排泄パターンや習慣を把握するようにしています。オムツの方がいらっしゃるのですが、1日1回はポータブルに座って促しています。排泄できたときの喜びと一緒に喜んでいきます。また、不快感を取り除くために清拭タオルを常に準備して活用しています。		ゆっくり排泄できる環境づくりをしていきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように準備はしています。健康状態を確認しながら入浴を勧めてはいます。ゆっくりした雰囲気が入浴できるように支援しています。拒否の強い方にはあまり無理をすすめてはしません。		入浴拒否の利用者に対してもっと工夫をしていくようにしたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員は一人ひとりの睡眠パターンを把握している。眠れない入居者には温かいお茶を飲んでいただいたり一緒に話をしたりの支援をしています。最近、無理に入眠をすすめずタイミングを見て居室に連れて入眠を促しています。睡眠剤を服用していた人が服用せず入眠出来るようになった人も居ます。		夜間帯に睡眠が確保できるように取り組みたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の好きな人、料理を手伝ってくれる人、食器洗い、洗濯物たたみなど日常生活の中に楽しみや生きがい、役割を持てるように支援しています。		忘れていたことがまだあると思われるのでそれを引き出せるように働きかけていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族との話し合いで預かり金として預かっています。毎月収支を家族のほうに確認してもらってます。本人が所持金を持っている人はタバコや好きなものを買に行かれるときは、自分が支払うという役割が出来ていますので落ち着かれています。		本人の力量に応じて支払いが出来るよう支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも外出でき利用者の中には近くの畑まで行き、花を摘んできたり、散歩をしたりと自由に行き来されています。自分から出かけられない利用者にも玄関や駐車場でお茶の時間を作ったりしています。		全員で出かけることが少ないので機会を作りたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在は町の行事や出身地近くの有名な場所までドライブしたりしています。家族とのお出かけは花見に行くことが出来ました。		今後は家族と温泉等の外出ができるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時はいつでも使用してお話してもらっています。あまり、本人から電話をかけたいという希望はありません。家族からかかってくる場合が多いです。お手紙は自由に書いて知り合いや娘さんに出されていますが、家族の方は賛同されてません。		家族への手紙や年賀状等を作成できるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は玄関でお迎えするようにしています。すぐにお茶をだし、利用者とゆっくり談話できるように居室や和室を提供しています。一緒におやつを食べていただくこともあります。		今後も面会が多数出来るように支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束のないケアは当然でありやってはいけないことだとわかっていますので拘束のないケアを行っています。		今後も身体拘束のないケアを実践していきます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りができるし居室には鍵はついてません。玄関は日中施錠してなく、外出時はセンサー音が知らせてくれるので必ず見守りができています。		鍵をかけずにすむケアを常に心がけて、自由に行動される力を大切にしたいと思っています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者は日中はホールで過ごしている事が多く様子確認は出来ています。廊下も見渡せます。玄関の往来の際はセンサー音が知らせてくれます。訪室時はノックをして声掛けするようにしています。夜間も定期的な巡視を徹底しています。		あまり関心しすぎず見守りの重視をしていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リビングの飾りに小物を置いていたら口に含めようとされることもあったので、場所の検討をしたことがありました。危険だと思ったらその場面で対応していくようにしています。		過剰に危険だと思わず、生活用品はあって当然だという気持ちで対応していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に目配りや、気配りを行い転倒の危険のある人は付き添っていく等、事故防止に取り組んでいます。また、ヒヤリハット報告書の活用をして安全管理を意識しています。定期的な防災訓練も取り組んでいます。		行方不明、火災など地域の方の協力体制が必要なものが不十分だと思われるのでもう少し検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成して職員の目に入るところに掲示してあります。救急蘇生法も消防署の方をお願いして受けております。		応急手当や初期対応の訓練を計画して状況に応じた対応が出来るようにしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地元消防団の視察をしてもらい連携が図れるように取り組んでいます。		定期的な訓練が足りないので地域の人々の協力を得て計画的に実施していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりにおこり得るリスクは入居時に把握できる範囲でご説明しています。利用者の状態の変化が生じた場合はその都度説明するようにしています。ご家族もご理解できていると思っています。		一人ひとりのリスクを早めに説明することでより良い関係を保てると思いますので今後も続けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気づいたら看護師に報告し協力医療機関に受診するようにしています。夜間も異常や変化に気づいたら看護師に連絡報告している。		職員はちょっとした変化も見落とさないような能力の向上を図っていきたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのケースに入れてあり毎服薬介助をして服薬の支援をしています。職員も毎回手渡すときには声掛けし、間違いのないように気をつけている。薬が追加になった場合はその理由と用量を知らせるようにしています。		確実に支援できていますが、薬の変更や追加になった場合は全職員に申し送りできる配慮を徹底したい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給をすすめたりヨーグルト製品をだしたり散歩を促したりと便秘予防の努力はしていますが個人差がありどうしても薬に頼ってしまう利用者もいます。		排尿を気にされ職員が考えている水分量には到達できないときがあります。本人の好みのもので提供できるように考えた対応をしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしています。自歯のある方は特に磨きの腰がないかを注意しています。また、舌の汚れも落ちるように指導しています。必要なときは歯科受診が出来るような体制づくりができています。		随分習慣化してきましたがまだ、自分から歯磨きされる方は少ないので積極的にすすめていきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、食事指導が必要な方はおられません。でも、状態に合わせて刻み食を出したり、おかゆを出したりと工夫して栄養を取っていただくようにしています。水分量の方では主治医に相談しながらこまめな対応をしています。		現在、経管栄養の方が居られます。家族も経口摂取への移行が良いのか迷っている状況なので主治医と相談しながら本人の希望のままにサービスが提供できるように対応していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの励行等の感染症マニュアルを作成して感染予防に努めています。		今後も職員の勉強する機会を増やしレベルアップに努めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃、管理は定期的に確実に施行できています。毎日、食材のチェックを行って、新鮮で安全な使用ができるように配慮しています。調理前には手洗いを実施して、ペーパータオルを使うなど衛生管理に努めています。		食中毒防止等には細心の注意をしていますが引き続き継続できるようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には立ち寄って話ができるようにベンチを置いています。玄関の中も常に明るく温かみを感じるように心がけています。		ホームは民家の中にあり洋風なのでひととき目立っているとは思いますが道路から見えにくいのではないかと思います。手作り看板等も検討中です。ホームの周りに四季折々の花も植えたいと考えています。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくちょうど良い陽の光が差し込んできます。騒音もなく環境には恵まれていると思います。リビングには季節感を感じるものも採り入れています。洗面台には利用者の方が摘んで来た花を置き家庭的な雰囲気を出せるように心がけています。		今後は職員と利用者の合同作品を飾られるようにしたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチやリビングのソファを思うように利用されています。また、喫煙所も喫煙仲間のコミュニケーションの場所として利用されています。		ソファの配置や椅子の活用でもっとお一人お一人に居場所が提供できるように工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものを持ってきていただくように声掛けしていたのですが家族のほうで新しいものを購入して持ってこられている方が多いです。それでも使い慣れてこれ自分のものだとわかってこれホッとしている状況です。小物類は今まで使っていた物を持ってきているので愛着がありよく使われています。		一つでも多く馴染みのものを持ち込んできていただくように声掛けを続けていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喫煙者がいらっしゃるのでタバコのおいやすみには注意しております。空気洗浄機を常に使用している状況です。また、室温や湿度のチェックも行い温度調節を行っています。また、職員中心にならないようにこまめな対応を心がけています。		換気などの時には外気温との差が出て不快感を与えてしまいますので細心の注意をしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の上がりかまちは低く作ってあります。また、スロープも一部あり手すりも設置してあります。ホール内はバリアフリーにしていますが、一人ひとりの身体機能を把握して残存機能を活かした支援も心がけています。		今後も身体機能が低下していくことを念頭に置き改善できるところは改善して行こうと思います。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札がさりげなくかけてあり、場所がわかるように配慮しています。出来るだけ失敗のないように配慮しています。		普段のケアの中で気付いた点等は全員で検討していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑がすぐ横にあり一緒に野菜を植えたり草を取ったりしています。玄関のポーチにベンチを置いて利用者の好きな空間に活用しています。		花が常に咲いている環境を作りたいです。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・離島という特殊な地域の中に存在していますが、周りの海と近くの山の自然豊かな環境が「ゆとりある愉快的な生活」を可能に出来る財産だと思っております。その中で私たち職員は、認知症という病気だけど明るく元気に過ごして楽しい生活を送っているというのを地域の方に見て頂き、地域の方に愛される事業所でありたいと願って町の行事参加したり、自分たちの方から出かけたり見学に行くことに取り組んでいます。